

ボタンの育て方

植え付け

時期 ボタンは、春に植え付けを行うと、根にこぶのできる根頭ガン腫病に侵されやすいことから9月下旬～10月上旬に植え付けます。この時期は、夏の休眠をおえて根を伸ばし始める直前で、植え付けの作業で傷んだ根の回復が早く、新しい場所への根づきも容易です。

場所 日当たりを好みますが、太い根が地表近くを浅く広がっており、乾燥しやすい状態になっています。そこで、建物の東側や落葉樹の下など、午前中は十分日が当たり、午後からの西日を避けられる場所に植え付けます。また、根が浅く張ることから多湿にも弱いので、水はけを良くするために斜面に植えたり盛り土をして高植えにします。

なお、多湿同様、強酸性の土壌では葉が小さく節間がつまり、花つきが悪くなるので、石灰をまいて中和しておきます。

剪定

花後、花首を切り取ります。次に、6月上旬までに、葉腋の小さな芽のうち基部の2芽だけを残して、ピンセットでかき取ります。秋には、この2芽が丸味のある大きな花芽になっていますから、10月にこの花芽の上で切ります。

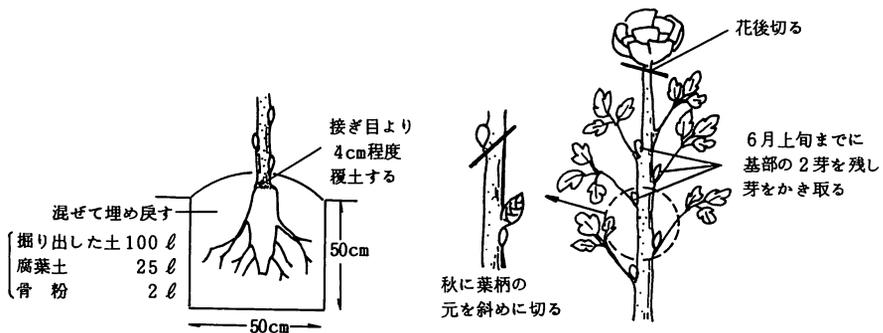
病気の防除

主な病気には、白絹病と根頭ガン腫病があります。

白絹病は、株の地際や囲りの地表面に白い糸状の菌糸が張り、やがて株が立枯れ状になる病気です。伝染性の病気なので、病株はできるだけ抜き取って焼却します。土壌は、熱やNCS剤などで消毒するか、新しいものと入れ替えます。

根頭がん腫病は根にコブができる病期で、特に地際によく発生します。コブを切り取り、あわせて土壌消毒も行います。

その他、炭そ病、灰色カビ病、えき病の予防に、澆水がある殺菌剤を月～9月毎の間月1回の割合で散布します。



植え付け

剪定